

<九州> 有明工業高等専門学校

*****断り*****

図や一部文章は当該高専 HP 及び当該高専が作成する資料より引用

有明工業高等専門学校 HP : <https://www.ariake-nct.ac.jp/>

学校要覧 2020 各種ページ

p.01-07 概要	p.08-27 創造工学科	p.28-30 一般教育科
p.31-38 専攻科	p.39-43 施設・組織等	p.44-48 活動
		p.49-56 各種データ

学校案内パンフレット :

<https://www.ariake-nct.ac.jp/wp3/wp-content/uploads/2020/09/851f2bebebd821282cdf7ac4ab6ead4.pdf>

*アクセス(図は有明高専 HP より引用)

〒836-8585 福岡県大牟田市東萩尾町 150

有明工業高等専門学校 アクセス MAP

交通機関
大牟田駅から西鉄バス15番 有明高専行
所要時間 約20分・約5Km



図1 アクセスマップ

*特色

- ・福岡にあるもう一つの高専
- ・本科は創造工学科として環境・エネルギー工学系、人間・福祉工学系の2つの系に分か

れ、環境・エネルギー工学系はエネルギーコース、応用科学コース、環境生命コースの3コース、人間・福祉工学系はメカニクスコース、情報システムコース、建築コースの3コースで編成されている

・専攻科は生産情報システム工学専攻、応用物質工学専攻、建築学専攻の3専攻

*教育目標・教育理念(図は有明高専 HP より引用)



図2 教育理念

*3つのポリシー(図は有明高専 HP より引用)

有明工業高等専門学校 準学士課程(本科)の3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー (DP) : 卒業認定の方針】

自然災害・高齢化社会などの現代の諸課題に柔軟に対応できる次のような技術者の育成を目的とした創造工学科の全課程を修了することにより、その学習・教育到達目標をすべて達成した者の卒業を認定し、卒業証書を授与します。

- 1) 幅広い工学に関する基礎知識と主体性を身につけた技術者
- 2) 専門工学に関する高度な知識と創造性に富み、実践力を身につけた技術者
- 3) 自己啓発・向上能力に富み、「ものづくり」を通して社会の発展に貢献できる技術者
- 4) 多様な価値観を理解し、学際的な技術分野で活躍できる技術者
- 5) 国際社会で活躍できる広い視野と教養をもつ技術者

【カリキュラム・ポリシー (CP) : 教育課程のつくり方・実施方法の方針】

有明高専では、DP で示している人材を養成するため、次のような特色ある方針により創造工学科の教育課程を編成・実施します。なお、下記科目群の単位は、定期試験及びレポート等の評価結果により認定します。

- 1) 1年次と2年次は創造工学科の1学科5クラス編成とし、一般教育科目及び工学基礎科目でカリキュラムを編成しています。
- 2) 2年次後期からは、2系6コースに分かれ、各コースの専門教育科目を実施します。高学年になるほど専門教育科目の割合が増えていきます。
- 3) 専門教育科目には、系の基本である系共通科目と、各専門の基礎から応用まで学べるコース専門科目があり、コース専門科目には、専門教育の知識を得るための科目はもちろん、自ら能動的に、他の人と協力して課題解決に取り組む創造実践型の科目を設置しています。
- 4) 一般教育科目には、社会系、国語系、外国語系のグローバル化に対応するための科目や数学、物理、化学などの自然科学系の教養科目を設置しています。
- 5) 4年次後期及び5年次には、コース専門科目に加えて卒業論文作成のための卒業研究を実施します。

【アドミッション・ポリシー (AP) : 入学を求める人の素養】

《求める学生像》

DP を目標に希望や夢を持って、CP に基づいた教育課程を進めるよう、有明高専では、基礎学力を持った中学校卒業生等で次のような人を求めます。

- 1) ものづくりに興味がある人
- 2) チャレンジ精神がある人
- 3) 他の人と協力して作業ができる人
- 4) 物事を粘り強く続けることができる人
- 5) 社会に貢献したいと考えている人

図 3 本科の3つのポリシー

有明工業高等専門学校 学士課程(専攻科)の3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー (DP)：修了認定の方針】

次のような創造性、多様性、学際性、国際性に富んだ高度な実践的職業技術者の育成を目的とした、専攻科の全課程を修了した人に対し、修了証書を授与します。

- 1) 物事を多面的に考察できる力、社会における技術者の責任を自覚できる高い倫理観、及び優れたコミュニケーション能力を備えた高度な技術者
- 2) 工学の基礎知識、工学の専門知識及び高度に融合された学際的知識を有し、実践力に富む高度な技術者
- 3) 課題の探究能力に優れ、またその課題を解決する方法を提案できる高度な技術者

【カリキュラム・ポリシー (CP)：教育課程のつくり方・実施方法の方針】

専攻科では、DP で示している人材を養成するため、次のような特色ある方針により各専攻の教育課程を編成・実施します。なお、下記科目群の単位は、試験及びレポート等の評価結果により認定します。

- 1) 豊かな教養と多面的な考察力を身につけるため、技術者倫理を含む一般科目を設置
- 2) 優れたコミュニケーション能力を身につけるため、日本語や外国語の科目のほかに、その能力を実践的に訓練する分野横断的な PBL(課題解決型学習)科目を設置
- 3) 高度な実践力養成のため、充実した国内外インターンシップ(特別実習)を実施
- 4) 工学の基礎知識を身につけるため、全専攻に共通した専門基礎科目を設置
- 5) 工学における学際的な知識を身につけるため、「生産情報システム工学専攻」等の3専攻において複合的・学際的な科目を設置
- 6) 深い専門性を身につけるため、少人数教育の専門科目や特別研究を設置

【アドミッション・ポリシー (AP)：入学を求める人の素養】

《求める学生像》

本校専攻科は、豊かな教養と幅広い専門知識、学際的・複合的視野と倫理観、創造性と実践力を身につけた、ものづくりのための高度な実践的技術者を育成することを目指しています。そのため、本専攻科では次のような人の入学を歓迎します。

- 1) 幅広い工学に関する基礎知識と主体性を身につけた人
 - 2) 専門工学に関する知識と創造性に富み、実践力を身につけた人
 - 3) 自己啓発・向上能力に富み、技術を通じ社会の発展に寄与できる人
 - 4) 多様な価値観を理解し、学際的な分野で活躍できる人
 - 5) 国際社会で活躍できる広い視野と教養を備えた人
- なお、実社会で活躍しながらキャリアアップしたいと考えている人なども歓迎します。

図 4 専攻科の3つのポリシー

*JABEE(図や URL は有明高専 HP より引用)

複合生産システム工学プログラム

本校では、平成 13 年度に専攻科が設置されたことに伴い、「幅広い工学基礎と豊かな教養を基盤に、創造性・多様性・学際性・国際性に富む実践的な高度技術者の育成をめざす」という教育理念を踏まえ、本科4年次から専攻科2年次までの4年間の学習・教育に対して、技術者教育プログラムとして「複合生産システム工学」プログラムを設定し、社会のさまざまな要請にこたえられる技術者教育を行っている。

本校では、平成 16 年度に本プログラムの JABEE 認定審査を受審し、社会の要求水準を満たしているプログラムとして認定された(認定期間：2年間)。

以降の JABEE 認定継続審査もしくは中間審査結果は以下のとおりである。

平成 18 年度中間審査受審 →

平成 18 年度～平成 20 年度まで認定継続 (認定期間：3年間)

平成 21 年度 2 回目認定継続審査受審 →

平成 21 年度～平成 23 年度まで認定継続 (認定期間：3年間)

平成 24 年度中間審査受審 →

平成 24 年度～平成 26 年度まで認定継続(認定期間：3年間)

そして、平成 27 年度に 3 回目の認定継続審査を受審し、平成 27 年度～平成 32 年度まで、初めて 6 年間 [JABEE 認定期間最長] の認定継続となった。

プログラムと学科・専攻の関係

複合生産システム工学プログラムは、下図に示すように本科全学科の 4 年次、5 年次および全専攻の 1 年次、2 年次から構成されている。

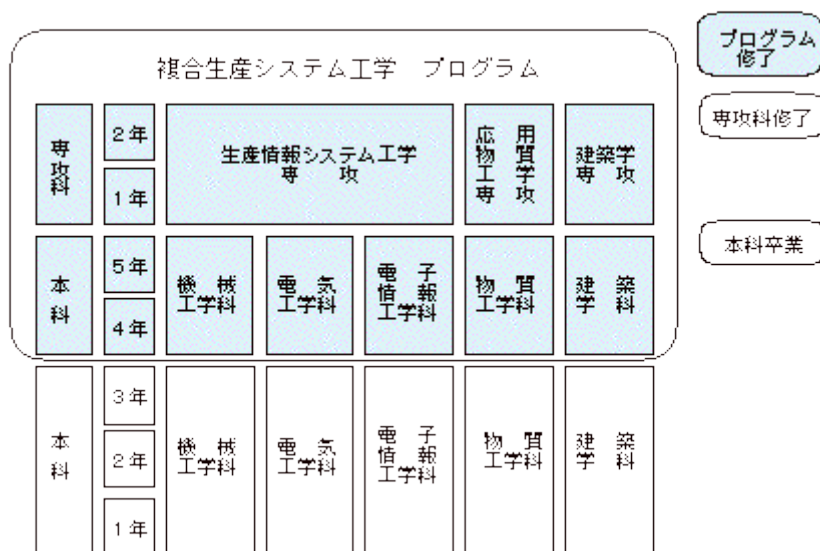


図 5 複合生産システムプログラム

プログラムがめざす技術者像

一般に技術者とは、数理科学および自然科学の知識を駆使し、社会や環境に対する影響を予見しながら資源と自然力を活用し、経済活動の担い手として人類の利益と安全に貢献するハード・ソフトの人工物やシステムを研究・開発・製造・運用・維持する専門職業人のことを言いますが、技術が急速に進歩し、複合化している現在では専門分野のみならず、他の専門分野との境界領域についても責任を持たなければならない。

また、構築、製作された「モノ」が安全であること、さらには「モノ」が社会や自然環境と

共存できることにまで責任を負うことが技術者には求められている。

このような背景と本校の「幅広い工学基礎と豊かな教養を基盤に、創造性・多様性・学際性・国際性に富む実践的な高度技術者の育成をめざす」という教育理念を踏まえ、本校では本科4年次から専攻科2年次までの4年間に相当する学習・教育に対して、一貫した一つの教育プログラムとして「複合生産システム工学」プログラムを設けている。

本プログラムでは、工業生産活動（機械、電気、電子情報、物質、建築）における諸課題を自ら発掘し、多角的な視点から解決するため、ものづくりに重点をおき、工学の専門知識と学際・複合的知識を総合した判断力と問題解決能力を備えた技術者の育成を目指している。さらにはこれらの教育を通じて、人々に優しく、自然と共存できる技術の開発に携わり、環境問題・食糧問題・エネルギー問題など今日的な諸課題について柔軟に対応できる技術者を育成することを目的としている。

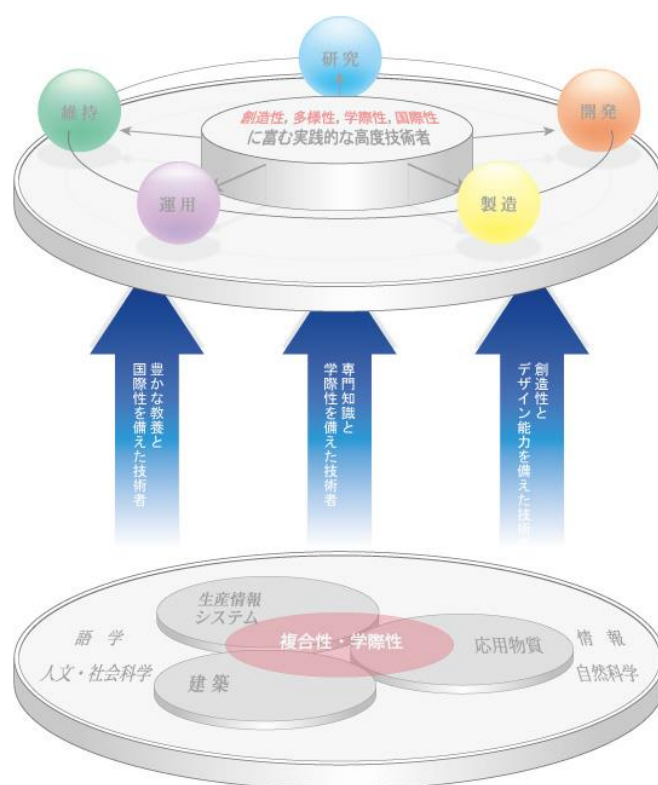


図6 本プログラムが目指す技術者像

学習・教育到達目標

[学習・教育到達目標](#)

学習・教育到達目標と JABEE 認定基準 1(2)の(a)～(i)との対応

[JABEE 基準 1\(2\)および学習・教育到達目標と JABEE 基準 1\(2\)との対応](#)

履修対象者

複合生産システム工学プログラムは本科4年次から専攻科2年次までの4年間を構成し

ており、本科4年次に進級あるいは編入した学生が本プログラムの履修者対象となる。しかし、本科を卒業し専攻科に進学せずに、就職したり他の高等教育機関に編入学する学生もいるので、最終的な本プログラムの履修者は専攻科に入学した学生としている。また、他の高等教育機関を卒業した学生や社会人が専攻科に入学した場合も本プログラムの最終的な履修者となる。

毎年4月に、本科の4年生と専攻科の1年生を対象にして本プログラム履修の手引きを配付し、説明会を実施している。

プログラムの履修

【単位の認定】

各授業科目の単位の認定は、本プログラムの学習・教育到達目標（A-1）～（C-2）を考慮して科目ごとに定められた「授業内容と到達目標」に十分到達しているか否かによって、科目ごとの単位の認定が行われる。本プログラムの「学習・教育到達目標」と「授業内容と到達目標」はシラバスに記載されていますから、学習・教育到達目標と到達すべき目標を十分理解して勉学に励んでください。

また、本科の授業外単位のうち、技能審査（資格試験）による修得単位は、授業時間を保証できないため、本プログラムの単位としては認められない。

他の高等教育機関等で取得した単位の認定方法

【他の高等教育機関で取得した単位、および編入学生が編入前に取得した単位の認定】

- (1) プログラム履修対象期間（本科4、5年次および専攻科1、2年次）に他の高等教育機関で修得した単位は、以下の単位の認定方法に従って、専攻科委員会での審議を経て、原則として、本プログラムの単位として20単位まで、およびその授業時間を認める。なお、放送大学で修得した単位は認めていない。
- (2) 本校以外の出身者で本プログラムに編入（本校専攻科に入学）した場合、本プログラム編入学前の出身校において修得した単位については、次の「プログラム履修中に他の高等教育機関で修得した単位の認定方法」に従って、専攻科委員会および教務委員会での審議を経て、本プログラムの単位としての認定と授業時間の認定をするので、学生は専攻科長または専攻科委員に相談して下さい。

【他の高等教育機関等で取得した単位の認定方法】

- ① 出身校がJABEE認定校である場合
 - i) 当該高等教育機関で修得した科目が「**科目構成**」（別表1～5）に掲げられたいずれかの科目群に該当する場合、その科目の当該高等教育機関の評価をそのまま認め、本プログラムの当該科目群の科目に読み替えて認定する。なお、当該高等教育機関で修得した科目の読み替えが適切にできない場合は、「学外科目」として認定する。
 - ii) 「**科目構成**」（別表1～5）に掲げられた科目群に該当しない科目については、本プログ

ラムの単位として認めない。

② 出身校が JABEE 認定校以外の場合

- i) 当該高等教育機関で修得した科目が「[科目構成](#)」([別表 1～5](#)) に掲げられたいずれかの科目群に該当し、かつその評価が 60 点以上の場合、本プログラムの当該科目群の科目として認定する。
- ii) 「[科目構成](#)」([別表 1～5](#)) に掲げられた科目群に該当しない科目については、本プログラムの単位として認めない。

【手続き】

上記①、②に該当する科目の本プログラムとしての単位と授業時間の認定を希望する学生は、以下の書類を教務係に提出して下さい。

- 1) 修得単位認定願
- 2) 成績証明書
- 3) 当該科目のシラバス

プログラムの修了要件(H24 プログラム履修の手引きより)

- (1) 学習・教育到達目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準（全系共通）に定める、学習・教育到達目標をすべて達成すること。
- (2) 60 点以上の評価点で 124 単位を修得すること。
- (3) 本科 4 年次～専攻科 2 年次までにおいて 1600 時間（1 時間とは正味 60 分の実時間のことである）以上の授業を受講すること。
この授業時間には、人文科学、社会科学等（語学教育を含む）の授業時間 250 時間以上、数学、自然科学、情報技術の授業時間 250 時間以上、専門分野の授業時間が 900 時間以上含まれていること。
- (4) 研究成果を学外に公表すること。ただし、知財に係わり、学外に公表することが望ましくない場合には事前に相談すること。
- (5) TOEIC400 点相当を達成すること。
- (6) 「学士（工学）」の学位を取得していること。

※上記の(1)において学習・教育到達目標をすべて達成することに関しては、各学習・教育到達目標の達成度が「[表 1 文部科学大臣が別に定める知識及び技能に関する審査における成果に係る学修及び認定単位](#)」と「[別表 1～5](#)」に定められた基準に基づいて評価されますので、表 1 と別表 1～5 をよく読んで指定されているとおり修得してください。特に、以下の①～③の評価基準は注意が必要です。

- ①「[科目構成](#)」の「[1] 基礎工学の知識・能力に関する科目群」の 1-①～1-⑤の各科目群からそれぞれ 1 科目以上、合計 6 科目以上修得すること。
- ②「[科目構成](#)」の「2-1)-①学際的・複合的な資質を育成する科目群」から 4 科目以上修得すること。ただし、専攻科の科目については本科における所属学科の専門以外の科目を修得す

るものとする。

③「[科目構成](#)」の「2-1)-②深い専門性を有する科目群」から4科目以上修得すること。

学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準

[表2 学習・教育到達目標とその評価方法および評価基準](#)

学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明

[表3 学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明](#)

学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ

[表4 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ](#)

教育課程表

[本科教育課程表](#)

[専攻科教育課程表](#)

*入試形態(URLは有明高専HPより引用)

[令和3年度 学生募集要項](#)

[令和3年度 編入学生募集要項](#)

[令和3年度 専攻科学生募集要項](#)

*試験状況及び偏差値や倍率(表は有明高専HPより引用)

偏差値 63

入学者状況

【本科】

学科名	年度	入学定員	総志願者数	うち推薦	志願倍率	合格者数			入学者数
				志願者		男	女	計	
創造工学科	R2	200	309	134	1.5	151	59	210	209
	H31	200	325	148	1.6	143	67	210	209
	H30	200	335	123	1.7	160	50	210	207
	H29	200	353	134	1.8	155	55	210	207
	H28	200	356	114	1.8	154	56	210	208

【本科4年次編入学】

令和2年度

コース名	総志願者数	合格者数			入学者数
		男	女	計	
エネルギーコース	3	2	1	3	0
応用化学コース	4	1	1	2	1
環境生命コース	2	0	0	0	0
メカニクスコース	5	1	1	2	1
情報システムコース	12	6	1	7	5
建築コース	3	2	0	2	2
合 計	29	12	4	16	9

平成31年度

学科名	総志願者数	合格者数			入学者数
		男	女	計	
エネルギーコース	4	3	0	3	2
応用化学コース	8	2	2	4	1
環境生命コース	1	0	1	1	1
メカニクスコース	7	4	0	4	3
情報システムコース	11	3	2	5	3
建築コース	5	0	3	3	3
合 計	36	12	8	20	13

平成30年度

学科名	総志願者数	合格者数			入学者数
		男	女	計	
機械工学科	12	3	0	3	3
電気工学科	3	1	0	1	0
電子情報工学科	16	2	0	2	1
物質工学科	3	2	0	2	1
建築学科	8	0	1	1	1
合 計	42	8	1	9	6

平成29年度

学科名	総志願者数	合格者数			入学者数
		男	女	計	
機械工学科	14	5	0	5	4
電気工学科	12	6	0	6	4
電子情報工学科	31	3	0	3	2
物質工学科	7	2	1	3	1
建築学科	3	1	0	1	1
合 計	67	17	1	18	12

平成28年度

学科名	総志願者数	合格者数			入学者数
		男	女	計	
機械工学科	9	4	0	4	4
電気工学科	5	3	0	3	1
電子情報工学科	21	10	0	10	8
物質工学科	8	3	2	5	2

建築学科	6	2	0	2	1
合 計	49	22	2	24	16

【専攻科】

令和2年度

専攻	入学定員	総志願者数	志願倍率	合格者数			入学者数
				男	女	計	
生産情報システム工学専攻	12	23	1.9	17	0	17	17
応用物質工学専攻	4	5	1.2	2	2	4	3
建築学専攻	4	8	1.8	4	3	7	7
合 計	20	36	1.8	30	5	35	34

平成31年度

専攻	入学定員	総志願者数	志願倍率	合格者数			入学者数
				男	女	計	
生産情報システム工学専攻	12	28	2.3	20	1	21	20
応用物質工学専攻	4	9	2.3	5	2	7	7
建築学専攻	4	7	1.8	5	2	7	7
合 計	20	44	2.2	30	5	35	34

平成30年度

専攻	入学定員	総志願者数	志願倍率	合格者数			入学者数
				男	女	計	
生産情報システム工学専攻	12	18	1.5	15	0	15	15
応用物質工学専攻	4	7	1.8	6	1	7	7
建築学専攻	4	9	2.3	5	4	9	9
合 計	20	34	1.7	26	5	31	31

平成29年度

専攻	入学定員	総志願者数	志願倍率	合格者数			入学者数
				男	女	計	
生産情報システム工学専攻	12	27	2.3	19	0	19	19
応用物質工学専攻	4	5	1.3	5	0	5	5
建築学専攻	4	2	0.5	2	0	2	2
合 計	20	34	1.7	26	0	26	6

平成28年度

専攻	入学定員	総志願者数	志願倍率	合格者数			入学者数
				男	女	計	
生産情報システム工学専攻	12	22	1.8	19	0	19	19
応用物質工学専攻	4	5	1.3	5	0	5	5
建築学専攻	4	5	1.3	4	1	5	5
合 計	20	32	1.6	28	1	29	29

*卒業後の進路状況(表や URL は有明高専 HP より引用)

[令和元年度卒業者の就職状況一覧](#)

本科卒業生数（令和元年度まで）

学科	機械 工学科	電気 工学科	電子情報 工学科	物質工学 科(工業化 学科)	建築 学科	計
令和元年度卒業 者数	49	34	45	29	42	199
累計卒業生数	2,189	1,871	983	738 (1,051)	1,732	8,294

令和元年度卒業者の進路状況

学科	機械工学 科	電気工学 科	電子情報工学 科	物質工学 科	建築学 科	計

卒業者数	49	34	45	29	42	199
就職希望者数	40	24	31	21	30	146
就職者数	40	24	31	21	30	146
進学者数	8	9	14	7	12	50
その他（含・自 営業）	1	1	0	1	0	3
地域(県外)	33	19	26	17	24	119
地域(県内)	7	5	5	4	6	27
求人会社数	792	814	818	435	496	3,355
求人倍率	19.8	33.9	26.4	20.7	16.5	23.0

専攻科修了生数（令和元年度まで）

専攻	生産情報システム工学専 攻	応用物質工学専 攻	建築学専攻	計
令和元年度修了者数	15	6	9	30
累計修了者数	300	98	85	483

令和元年度大学編入学・高専専攻科進学状況

大学等名	人数
有明高専専攻科	27
豊橋技術科学大学	4
九州大学	2
九州工業大学	8
佐賀大学	1
熊本大学	3
宮崎大学	1
東京農工大学	1

北海道大学	1
京都造形芸術大学	1
計	49

令和元年度大学院進学状況

大学等名	人数
九州大学大学院	6
九州工業大学大学院	5
北九州市立大学大学院	1
熊本大学大学院	2
金沢大学大学院	1
東京工業大学大学院	2
計	17